

令和4年度熊野古道協働会議・第2回分科会 Aグループ°（持続可能な保全体制づくり）

1. 分科会の目的・参加者・スケジュール	p.2
2. 第1回分科会の振り返り	p.5
3. 現状と課題	p.7
4. 先進事例	p.15
5. 今後の取組	p.19
6. 意見交換	p.21

令和4年9月13日
熊野古道協働会議事務局 作成

1

1. 分科会の目的・参加者・スケジュール

● 分科会の目的（熊野古道アクションプログラム3 追記編）

世界遺産登録25周年を迎える年には、伊勢路全域で**持続的な保全の仕組み**が構築されていることをめざし、分科会で検討し**工程表を作成**します。

- 関係団体の担い手確保
企業のCSR活動によるご協力を得るなども含めた**新たな担い手確保策の積極的導入**や、臨機応変に保全活動を支援できる仕組みや方法についても検討します。
- 保全活動に係る資金確保
クラウドファンディングなど**あらゆる資金確保策**を検討します。
- バッファゾーンの森林管理のあり方

2

1. 分科会の目的・参加者・スケジュール

● 分科会の参加者

座長 玉津 充 氏 (海山熊野古道の会)

副座長 西山 光雄 氏 (二木島峠・逢神坂峠世話人会)

奥村 清司 氏 (熊野古道伊勢路を守る会)

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課

委員 熊野古道伊勢路沿線市町の文化財保護担当課

(伊勢市、玉城町、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町)

一般社団法人東紀州地域振興公社

三重県 (紀北地域活性化局、紀南地域活性化局、南部地域活性化局)

* コアメンバーのほか、熊野古道伊勢路にご関心のある方は、どなたでも参加できます。

1. 分科会の目的・参加者・スケジュール

● 分科会のスケジュール

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	第1回分科会	工程表(素案)の検討		第2回分科会	工程表(中間案)の検討		第3回分科会	工程表(最終案)の検討	第4回分科会	協働会議
保全団体への調査	ヒアリング		担い手確保策や資金確保策の検討		実施・検証				工程表確定	工程表完成の報告
	現状把握と課題の整理		先進事例の研究			サポーターズクラブ活動				

2. 第1回分科会の振り返り

● 第1回分科会での意見交換の概要

第1回分科会（持続可能な保全体制づくり）では、主に次の3点について、意見交換等を行いました。

詳細は「参考資料：第1回分科会 発言要旨」をご参照ください。

- 各保存会の活動状況について情報共有
- 保全の体制（活動状況）・財源に「違い」があることを改めて認識
- 保全活動の課題について意見交換
 - ▶ 担い手確保：ボランティアの受け入れや、保全を統括する組織についての意見など
 - ▶ 資金確保：行政の補助金による支援についての意見など
 - ▶ まとめ：どのような資金支援、人的支援、物的支援があるかを明らかにすることとなった。

3. 現状と課題

● 保全団体への聞き取り

5～6月中旬にかけて、保全活動の現状と課題を把握するため、保全団体あてに調査を実施しました。その後、ご回答いただいた内容を基に、詳細について、聞き取り調査をしました。

- ・ 目的：実際に活動されている方々から現場の声を聴くこと
- ・ 方法：南部地域活性化局職員が訪問または電話にて聞き取り
- ・ 時期：令和4年6～8月
- ・ 内容：活動状況（活動内容・作業人数）、活動経費（補助金）、課題等について

7

3. 現状と課題

● 保全団体への聞き取り結果

	課題あり	課題なし
担い手	<ul style="list-style-type: none">・人数が不足している、1人で活動している・高齢化しており、若い人材が必要・後継者がいない、新規会員の獲得が難しい	<ul style="list-style-type: none">・人数の不足はない
資金	<ul style="list-style-type: none">・補助金の対象経費が限られている（おやつ代や人件費にも使えるといい）・行政の予算措置に時間がかかる・足りない分は自費で賄っている	<ul style="list-style-type: none">・補助金を活用している・パトロール契約をしている・体験事業による収入がある
その他	<ul style="list-style-type: none">・サポーターズクラブの受入れ（平日のが参加しやすい、コロナによる中止）・峠間の連携や広域での活動が必要・保全の窓口が必要・日常的な保全活動以外の作業に手が回っていない	<ul style="list-style-type: none">・できる範囲で活動している

8

3. 現状と課題

● 市町の取組の調査

第1回分科会で、各市町による保全団体への支援状況を調査することについて合意があり、書面調査を実施しました。

- 目的：各市町の取組や予算の状況について把握し、支援の標準化を図ること
- 方法：文化財保護担当課および観光担当課あて、書面にて依頼
- 時期：令和4年7月29日から8月15日まで
- 内容：保全団体への資金支援、人的支援、物的支援等について

9

3. 現状と課題

● 市町での取組の調査結果

	補助金	パトロール	人的支援	物的支援	予算化
多気町	観光振興等の経費100千円		地域住民によるボランティア活動に参加	蜂駆除スプレー等を購入・支給	歩道維持のため原材料費や修繕など
大台町				ポールや旗を現物支給	馬鹿曲がり橋の再建
大紀町	自主的な活動経費100千円	2千円/回		看板の設置	修繕に係る費用
紀北町	作業手数料 予算300千円	30～70千円/年	保全団体から案内をもらい参加	原材料を購入・支給、看板設置	小修繕用予算 500千円 (年間総額)
尾鷲市		6.6千円/回			
熊野市		30千円/人	保全団体から案内をもらい参加		
紀宝町			七里御浜の清掃活動に参加		

10

3. 現状と課題

- 熊野古道保全支援事業【東紀州地域振興公社】

東紀州地域振興公社が行う、熊野古道保存会等の活動を支援する事業

- ・ 財源内訳：熊野古道の保全に貢献する趣旨の寄付金等
- ・ 対象団体：熊野古道伊勢路の保存・保全・維持管理を行っているボランティア団体
- ・ 対象経費：消耗品購入費、物品購入費、備品の賃貸料 等
- ・ 支援限度額：1団体あたり10万円（年度ごとに公社において決定）

11

3. 現状と課題

- 三重県文化財パトロール事業【県教育委員会】

文化財を巡視し、文化財の管理・保存状況を把握するとともに、適切な処置を講じ、文化財保護の万全を期するため、県教育委員会 社会教育・文化財保護課が実施する事業

- ・ 実施内容：文化財の巡視及び調査等を一人あたり年間5回、30時間程度
- ・ 実施場所：熊野古道においては、世界遺産登録区間
- ・ 実施者：三重県文化財保護指導委員
- ・ 報酬等：報酬1時間あたり1,350円、別途旅費（実費）

12

3. 現状と課題

- 近畿自然歩道維持業務【県農林水産部が市町に委託】

県農林水産部 みどり共生推進課が近畿自然歩道の管理を所管しており、維持業務を各市町に委託している。

- ・ 実施内容：近畿自然歩道のパトロール、草刈り、便所清掃
- ・ 実施場所：当該市町を通る近畿自然歩道の全域
- ・ 実施者：市町および地元団体等により実施
- ・ 報酬等：委託料による

13

3. 現状と課題

- 現状の整理

- ・ 保全団体によって、「担い手」および「資金」に課題があったり、なかったり
- ・ 市町によって、資金支援、人的支援、物的支援の取組はさまざま
- ・ 峠によって、県市町の文化財パトロール・近畿自然歩道のパトロールが行われている

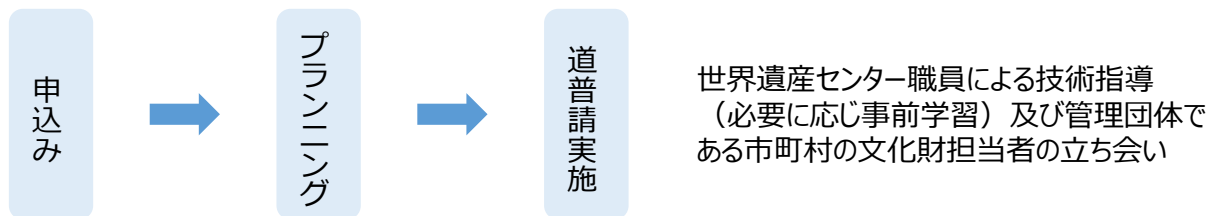
14

4. 先進事例

● 道普請ウォーク【和歌山県世界遺産センター】

企業や団体が、参詣道の維持、修復活動にボランティアとして協力する「道普請ウォーク」をプログラム化し、企業等がCSR活動や研修の一環として参加している。

- ・ 活動内容：①道普請…参詣道への土の補充等
②保全ウォーク…横断溝・側溝の清掃を行いながらのウォーク
- ・ 参加者負担：現地までの交通費、作業用資材（まさ土※、軍手等）、傷害保険代など
※ 1回あたり土1～2トン、15～17千円
- ・ 主催者負担：道具の購入や修繕が必要なものなどは必要な時に都度対応



15

4. 先進事例

● クラウドファンディング【田辺市熊野ツーリズムビューロー】

コロナ禍により熊野古道を訪れる人が激減したうえ、過疎化高齢化に伴い日常的な維持が困難なことなどから、プロジェクトを立ち上げた。

- ・ 目的：熊野古道を維持するための費用とするため、目標額を200万円と設定
- ・ 結果：226人（外国からも米10人、豪3人など）から308.3万円

YAMAP FUNDING（ヤマップ ファunding）

登山アプリ「YAMAP」による「自然特化型クラウドファンディング」

- ・ プロジェクト掲載料は無料
- ・ 受け取れる資金は、達成した支援総額に対して10%の運営費を差し引いた金額
- ・ DOMO※による支援は円に換算される（100DOMO=1円）
※DOMOはYAMAP独自のポイント

参考URL：<https://pages.yamap.com/funding>

16

4. 先進事例

● 利用者参加制度（北アルプストレイルプログラム） 【北アルプス登山道等維持連絡協議会】

社会環境や自然環境の変化により、これまでと同様の維持が一層難しくなっていることから、利用者から登山道の維持補修活動にかかる寄附金を収受する実証実験を実施。

- 実施体制：協力金は北アルプス登山道等維持連絡協議会が管理し、協議会が管理する登山道の維持のための資金として活用
- 登山道維持協力金：1口500円から
- 協力金の収受方法：クレジットカード、山小屋での現金支払い、銀行振込

収 受 額	合計	5,526,023円	運 営 経 費	広報媒体（設置用）	約57.6万円
	クレジットカード	3,750,502円		広報媒体（カード配布）	約154万円
	山小屋	699,818円		協議会ウェブサイト	約57万円
	銀行振込	1,075,703円		その他	

5. 今後の取組

● 工程表イメージ

	2023(R5) 19周年	2024(R6) 20周年	2025(R7) 21周年	2026(R8) 22周年	2027(R9) 23周年	2028(R10) 24周年	2029(R11) 25周年
サポーターズ クラブ	新たな取組の トライアル実施	新たな取組の 本格実施	毎年度 検証・改善				
伊勢路全体 の保全を統 括する組織	組織の検討	立ち 上げ					
担い手確保	継続検討 〔一部、先行 テスト実施〕	組織設置前後から トライアル実施		検証	トライアル実施	検証	本格運用 〔毎年度 検証〕
資金確保							

* 項目・工程を細分化して検討

19

5. 今後の取組

● スケジュール想定

9月	10～11月	12月	1月	2月	3月
第2回分科会	<ul style="list-style-type: none"> 工程表（中間案）の検討 サポーターズクラブ活動 先進事例のさらなる調査 	第3回分科会	<ul style="list-style-type: none"> 工程表（最終案）の検討 	第4回分科会	熊野古道協働会議

20

6. 意見交換

● 意見交換に当たっての前提

- ・ 分科会の今年度の目標は「工程表を作成」することとしており、今年度中に全ての答えを出すわけではありません。
- ・ 今年度は、
 - (1) 現状把握と認識の共有
 - (2) 「担い手確保」と「資金確保」に関するさまざまな手法に関する知識の共有と検討
 - (3) それらを踏まえたうえで今後の「工程表の作成」がゴールと事務局は認識しています。
- ・ 持続可能な保全体制に向けて、来年度以降も検討を続け、議論を尽くした結果として、よりよい姿を構築していく、という流れで進めてはどうかと考えます。

21

6. 意見交換

● 熊野古道サポーターズクラブ（こちらは新たな取組案について具体的に意見交換をお願いします。）

（今年度から試行）

- ・ 参加した成果を広報するなどのインセンティブを検討
- ・ 休日に限定せず、平日の開催を試して、参加者の集まり具合をみる

（今後の導入を検討）

- ・ ニーズに応じて臨機応変に活動できる仕組み
- ・ 清掃ウォークだけでなく、道普請も継続的にやってみる
- ・ 熊野古道に関する事前学習との組み合わせ
- ・ 語り部が古道の案内をしながら、並行してボランティア清掃

（参考）第1回分科会でのご意見

- ・ 参加した成果を広報したり、インセンティブがあれば良い
- ・ 道普請もやってみてはどうか
- ・ 平日の方が都合が良い保全団体では、土日の受入れが難しい

（参考）R3ヒアリング・アンケートでいただいたご意見

- ・ イベントへの参加者が固定化している
- ・ 保全活動が少なく荒れがちな峠道を中心に作業してほしい
- ・ 年に1回とかでは、地域と密着しておらず顔が見えない

22

6. 意見交換

- 伊勢路全体の保全を統括する組織
 - 保全活動を通じて目指す伊勢路の姿
例：「文化的価値が保たれ、安全で快適に歩ける伊勢路」とは
 - 保全活動の望ましいスタンダード（標準）とは

23

6. 意見交換

- 担い手確保
- 資金確保

24